異文化に触れて　国際交流　世界と深まる絆

的に命中！歓声

「ONE DAY TEAMMATE」に参加

短期留学生が弓道初挑戦

留学生が弓道に初挑戦――。夏期日本語・日本事情プログラム（6月22日～8月11日まで7週間コース）を受講し、日本語学習中の短期留学生7人が、7月28日、生田キャンパス北グラウンドで行われた「ONE DAY TEAMMATE」弓道教室に参加した。

留学生たちは弓で矢を射て的を狙い、命中すると歓声がわいた。

「ONE DAY TEAMMATE」は専修大学体育会が地域貢献活動の一環として毎年夏に開催しているスポーツ教室。

当日は35度近くの猛烈な暑さのなか、弓道着と袴に身を包んだ留学生は、同部長の吉田治弘法学部教授はじめ部員14人から直接指導を受け、10㍍先の的へ矢を放ち、数本的中させた留学生もいた。2チームに分かれて対抗試合を行い、最後は28㍍先の的に挑戦した。

米国オレゴン大学のエドワード・リーさんは「一度アーチェリーをやったことがあったが、弓道も日本の武道も体験するのは初めて」。同じくジェイコブ・スミスさんは「弓道は、弓を引くことよりも引いてからそれを保つことが難しい」と話した。

▲　真剣な表情で弓を引く留学生たち

イランからの留学生シーヴァ・アスファリさんは「弓道の写真を見てぜひやってみたいと思って申し込んだ。弓を引く右手が痛くなったが、いい経験になった」。同じくイランのムジャン・ロールキャランタリさんは「命中すると面白くなった。もっと練習したい」と笑顔を見せた。

フランスのヴィルジニー・デジュイさんも「日本の思い出に伝統的武道に挑戦したいと思った。ぜひ、もう一度やってみたい」とにっこり。

スペインのルイス・マヌエル・ロペス・ゴメスさんはスペインで空手の経験があり、空手部の練習に参加していた。「空手と違って、弓道は型を作り上げるのが難しい。道場は、緑豊かで、気持ちよく参加できて楽しかった」と汗をぬぐった。

韓国・檀国大学の劉承雅（ユスンア）さんは「憧れの弓道ができてうれしい。韓国のスポーツとはまったく違うので面白かった」と話した。

指導にあたった同部員の古川雄太郎さん（商3）は「弓道は練習すればするほどうまくなる。留学生のみなさんも途中から上手になった。帰国してからも、チャンスがあったら、ぜひ続けてほしい」と話す。

※撮影は専大スポーツ編集長＝山内夏穂さん（人間科学3）

「他人にない〝何か〟を持つ人物に」

卒業生・石黒侑介さん

後輩にエール送る

▲　熱弁の石黒さん

国際的に活躍する卒業生の話を聴く第3回国際理解講演会が7月6日、生田キャンパスで開かれた。講師は（公財）日本交通公社・研究調査部研究員で「観光の専門家」として内外で活躍する石黒侑介さん（平18経済＝本紙502号「専大校友を訪ねて」で紹介）。

石黒さんは在学中、スペインやメキシコに留学した。メキシコではプロサッカーチームにも所属。さまざまな経験から道が開かれた。

その体験から「世の中には学歴に優れ、優秀な人材はたくさんいるが、専大卒業生は決して劣っていない。重要なのは『この人しかできない』という〝何か〟を身につけること。他人にはできない経験の積み重ねが人材としての価値を生み出す。他人とはちょっと違う〝とがった〟人物になれ」と語り、教室を埋めた60人の後輩にエールを送った。

12年度中期留学プログラム　留学生13人決まる

2012年度中期留学プログラム（英語、社会知性開発、中国語、コリア語、フランス語、スペイン語の6コース。いずれも後期）の留学生13人が決まった＝写真。

留学先と派遣期間、留学生の氏名は次のとおり（敬称略）。

●ネブラスカ大学リンカーン校（アメリカ、8月中旬～12月中旬）▽菅野高史（法4）▽増田雄太（文3）▽品田さつき（文3）

●ワイカト大学（ニュージーランド、8月下旬～12月上旬）▽佐野柚季（法3）▽小川佳保莉（経営2）▽石黒朋代（文3）

●上海大学（中国、9月上旬～1月上旬）▽佐川智紀（経済3）▽加藤亮（法3）▽田渕いづみ（商3）

●檀国大学（韓国、8月上旬～12月下旬）▽水口瑛莉（商3）

●リュミエール・リヨン第2大学（フランス、9月上旬～12月下旬）▽鈴木教道（法3）▽吉田かれん（文3）

●イベロアメリカーナ大学（メキシコ、8月上旬～12月中旬）▽堀地萌果（経済3）

「海外留学・国際交流フェア」開催

留学ＯＢの講演、留学生の母国紹介など多彩に

留学を希望する学生や国際交流に興味をもつ学生たちが情報交換や交流を行う「国際交流センター主催海外留学・国際交流フェア2012」が、7月7日、生田キャンパスで開催された。今年で9回目となる。

主なイベント内容は次の通り。▽帰国留学生による個別相談ブース▽留学プログラム研修校別プレゼンテーション▽ＴＯＥＦＬセミナー（夏期特訓）模擬授業▽交換留学・中期留学願書作成ガイダンス▽留学ＯＢ・ＯＧによる講演会～留学と就職～▽留学生による母国紹介▽留学生とのトーク＆ディスカッション

留学希望者にアドバイス

個別相談ブースでは、留学体験者が留学希望者の相談に乗った。産屋敷麻記子さん（文3）は、昨年夏、米サスケェハナ大学に短期留学した。

「ホームステイ先での過ごし方や日本から持参した方が良いものを質問されたので自分の体験をもとにアドバイスしました。留学でこれまで体験したことのない感動を味わうことができました」と話した。

ドイツからの留学生による母国紹介には約30人が参加。マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク（以下ハレ大学）の4人の留学生が滑らかな日本語でドイツの歴史や文化、ハレ市の様子などを紹介したあと、ドイツ語の寺尾格経済学部教授、西口拓子経営学部准教授も交え、なごやかなティーパーティーが開かれ、参加者同士が交流を深めた。

中国と韓国の留学生による同コーナーでは、ミニミニ会話講座もあった。

▲　多くの学生が来場した夏期留学プログラム説明会

▲　先輩たちが親身になってアドバイス（留学帰国学生による個別相談ブース）

「東日本大震災」テーマにトーク＆ディスカッション

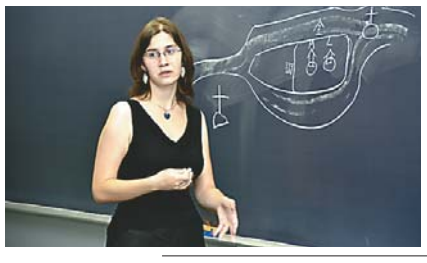
また、毎年行われる「留学生とのトーク＆ディスカッション」のテーマは「東日本大震災～僕らが思うこと～」。

国際協力サークルＳ・Ｉ・Ａのメンバーによる石巻市でのボランティア活動の報告、ドイツ人留学生クリスティン・グルーベさんによるハレ大学での東日本大震災募金活動の報告に続き、留学生と日本人学生が、5～6人のグループに分かれ、くつろいだ空間の中で自由な意見を出し合った。

また「留学ＯＢ・ＯＧによる講演会」では、日本水産営業企画室に勤務する大西英朗さん（平19法）がメキシコ・イベロアメリカーナ大学での長期交換留学のエピソードを披露したほか、世界の水産資源にアクセス機能を持つ日本水産の水産物供給に対する理念や自身の仕事について講演した。

聴講した伊藤聡志さん（経営3）は「日ごろからゼミの先生に世界に目を向けるように言われていたので今日のお話はとても刺激になりました」と話した。

▲　「東日本大震災」をテーマに自由に意見を交わした（留学生と日本人学生とのトーク＆ディスカッション）



▲　ハレ大学からの留学生がドイツの歴史や文化などを紹介（母国紹介）

▲　生田10号館アカデミーモールには留学帰国学生、国際交流事務課スタッフによる相談ブースに加え、留学関連企業もブースが設けられた